シンフォニー（新潟県）
私たちにできること

長岡市消防団　消防団本部　広報指導分団　副分団長
酒井　敦子

私たちの住む長岡市。人口約28万人。新潟県のほぼ中央部に位置し、日本一の長さと流水量を誇る信濃川が市内を南北に縦断。その両岸に肥沃な沖積平野が広がり、東西には東山連峰と西山丘陵がそれぞれ連なっています。また、日本海に面して、山岳部から平野部、そして海岸へと至る変化に富んだ地勢が魅力的な、豊かな自然と四季の変化に恵まれた都市です。

長岡市消防団では、平成20年８月に初めて女性消防団員が採用され、平成23年10月には、火災予防や応急手当の普及啓発活動などを主な任務とする「広報指導分団（愛称：長岡フェニックスレディース）」が結成されました。消防団員として右も左もわからない女性集団でスタートした広報指導分団ですが、男性分団長の指導のもと、結成から４年が経過したところです。

現在、女性分団員は結成当時の25名から30名に増え、消防関係行事などで、防火啓発活動や応急手当普及活動、入団促進活動を実施しており、分団員がそれぞれスキルアップしていることや、各行事において広報指導分団への出場依頼が年々増えてきていることを副分団長として大変うれしく思っています。

防火訪問指導

私が入団したきっかけは、職場に掲示してあった「女性消防団員募集」のポスターでしたが、当時の私は、平成16年の新潟県中越地震を経験していたものの、中越地震とは比べものにならない東日本大震災の惨劇をメディアで拝見し、「今、何かをしなくては」と思っていました。しかし、実際に何をしたら良いのか戸惑いながら、日々過ごしていたように思います。最初は、職場にポスターが掲示してあること自体に気が付きませんでしたが、毎日通る通路に掲示してあったため、そのうち目に留まるようになり、いつしか立ち止り、「消防団員は何をするの」、「私でもなれるの」という疑問がわいてくるようになりました。ついには、入団要件のひとつにあった「健康な方」について、「どの程度健康であれば入団できますか」と消防本部に問い合わせていました。

そして、入団後、様々な訓練、研修を受講するたびに、自分が防災について無知であったことを痛感させられました。

入団後に、「消防団員になったんだ」と実感できたのが、「防火訪問指導」です。毎年、秋の火災予防運動の一環として、消防職員が市内の65歳以上の世帯を訪問し、防火啓発、住宅用火災警報器の設置促進などを行っているのですが、私たち広報指導分団も３年前から同行させてもらいました。最初は、消防職員が訪問する後ろに付いていくだけでしたが、徐々に私たちも話に加わるようになり、昨年からは、消防職員とは別に広報指導分団のみで訪問を行うまでになりました。当初は見ず知らずのお宅を訪問することに抵抗がありましたが、訪問先の方が、私の話を真剣に聞いてくださって「ご苦労様です」、「わざわざ、ありがとうね」などの感謝の言葉をいただいたときは、消防団員になって本当に良かったと実感できました。また、分団員がそれぞれ割り振られた世帯を訪問するようになり、分団としての成長も感じているところです。

応急手当普及員講習

今、私たちが力を入れている活動のひとつが、「防火紙芝居」です。たかが紙芝居と思われがちですが、発表を始めた途端に子供たちの目の色が変わり、真剣に話を聞いている姿や子供たちの笑顔に触れた際の感激は今でも忘れられません。

今後は、季節や行事、対象者に合わせたストーリーの紙芝居を、自分たちのオリジナルで作成し、子供から大人まで楽しんでもらいたいと考えています。

また、ＡＥＤの取り扱いや救急法の指導にも力を入れていきたいと思っています。現在、31名の分団員のうち15名が、応急手当普及員の資格を取得し、一般団員に対し定期的に普通救命講習を消防職員とともに実施しています。消防職員の方の話では、「女性が講師の方が受講者もリラックスして受講できるようです」と好評をいただいています。今後も普及員の人数を増やしていくとともに、普及員のレベルアップを図り、私たちだけで一般市民に対しての普通救命講習を実施していきたいと思っています。

最後に、発足して５年目となりますが、広報指導分団としての役割、方向性が明確に見えてきたところです。私たちは、消火活動や人命救助活動を行うことはできません。しかし、地域住民が安心・安全に暮らせるように、私たちにもできることがあります。「火災を起こさないために普段から気をつけること」、「火災が起きてしまった時に、どう行動したら良いか」、「目の前で家族や他人が倒れた時にどう行動したら良いか」など、その方法を多くの市民へ伝えていくことが私たちの責務だと思っています。また、それは「私たちだからこそできる」ということを自覚し、地域住民に親しまれ、頼られる「長岡フェニックスレディース」を目指して、笑顔で活動していきたいと思っています。

防火紙芝居に聞き入る子供たち